

日 付	令和5年4月12日
担当所属	教育庁総務課教育企画室
担当者名	働き方改革推進監 伊藤宏紀
連絡先	055-223-1750 (内線 8021)

「やまなし教員等育成指標」の改定について

○やまなし教員等育成指標とは

- ・教員のキャリアに応じて示した資質の向上に関する指標。教員はこれに基づき、自身に必要となる資質能力を把握し、教育委員会は研修計画の立案に活用。

○指標改定の趣旨

- ・現行の学習指導要領の実施、GIGAスクール構想による一人一台端末の導入、中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」、教員免許更新制の発展的解消など、教育事情の変化に対応するため、見直しを実施。

○指標改定のポイント

【教員育成指標】

- ・教員に必要な資質能力を再整理するとともに、内容の充実化
- ・国の改正指針を踏まえ、従来の指標に加え、「特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応」「ICTや情報・教育データの利活用」を追加
- ・本県における課題に対応できる資質能力の向上を図るため「いじめ等への対応」や「働き方改革の推進」など、県独自の視点を追加

【養護教諭及び栄養教諭育成指標】

- ・国が公表した養護教諭、栄養教諭に関する資料の反映、修正

【校長指標】

- ・従来のマネジメント力とともに、アセスメント力、ファシリテーション力を追加

○経緯

- ・平成29年11月 やまなし教員等育成指標を策定
- ・令和2年3月 やまなし教員等育成指標を一部改訂
- ・令和4年5月 教育公務員特例法の一部改正
- ・令和4年7月 第1回教員育成協議会
- ・令和4年8月 文科省 改正教育公務員特例法に基づく指標策定の指針改正
- ・令和4年9月 第2回教員育成協議会
- ・令和4年10月 第3回教員育成協議会

やまなし教員等育成指標の改定について

《これまでの指標》

- 教職としての素養と専門性の2本柱
- 教職としての専門性を教員のライフステージ（第1～第3）ごとに設定

【専門性】

- ・学習指導、生徒指導、キャリア教育、特別支援教育、学校運営、新たな教育課題（グローバル化、情報教育、人権教育）

背景・課題

- ◆ Society5.0時代や先行き不透明な予測困難な時代
- ◆ 子どもたちの多様化（特別支援、外国人児童生徒、貧困、いじめ、不登校など）
- ◆ 教員の長時間勤務、多忙化 → 働き方改革

《やまなし教員等育成指標の改定のポイント》

- 教員主体の授業から児童生徒主体の授業への転換（個別最適な学び、協働的な学び、ICTの活用などの視点）
- 全ての子供の学ぶ機会やチャンスを潰さない教育（誰一人取り残さない視点⇒特別な配慮、合理的配慮、いじめ等問題行動、ヤングケアラー）
- 研修の強化（外部と連携した研修）
- 校長のマネジメント力の強化

改定やまなし教員等育成指標の概要

【山梨県が求める教員像】

ICTを活用し、多様な子供たちに個別最適な学びと協働的な学びを実践しながら、「自ら考え行動し、他者と協働していく児童生徒」を育てる教員

【教員として必要な素養】

豊かな人間性と人権意識、優れたコミュニケーション能力、崇高な使命感と責任感、高い倫理観と規範意識、常に学び続ける力、ふるさと山梨の未来を担う人材を育成する力

【教員として必要な専門性（ステージごと）】

《ポイント》

【重点項目】教員主体の授業から児童生徒主体の授業への転換

- ・学習者中心の授業を実践し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に取り組む（例：よのなか科）
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業を実践している
- ・一人一人の特性を理解し、児童生徒の可能性を引き出す集団づくりを行う

【重点項目】全ての子供の学ぶ機会やチャンスを潰さない教育

- ・児童生徒の気持ちに寄り添い、児童生徒の理解を深め、課題解決に向け取り組んでいる
- ・合理的配慮や教育的ニーズに応じた指導を実践している
- ・ヤングケアラーや不登校等特別な配慮や支援を要する児童生徒に対し、関係者と連携、協働し適切な支援をしている。

【専門性に関する項目】

- ・児童生徒が自分らしい生き方を実現するための力を同僚と協働し育成している
- ・教員として学び続け、広い視野をもって自己研鑽を積んでいる

改定やまなし校長指標の概要

【山梨県の校長が目指す姿】

リーダーシップを発揮し、信頼される学校経営を行う校長

【校長として必要な素養、専門性】

《改定のポイント》

- ・マネジメント力の強化
- ・アセスメント力の強化
- ・ファシリテーション力の強化

今後の取組

- 育成指標活用ガイドの作成・活用
 - ・指標の内容について具体的に解説
- 育成指標に基づく研修体系の構築
 - ・外部講師も活用した研修の立案
- 研修履歴システム
 - ・研修履歴を活用した管理職による資質向上に関する指導助言
- 自己観察書の活用
 - ・資質能力の向上に向けた振り返り

【改定】やまなし教員育成指標

教員として必要な専門性を重点項目ごとに整理

山梨県が求める教員像

ICTを活用し、多様な子供たちに個別最適な学びと協働的な学びを実践しながら、「自ら考え行動し、他者と協働していく児童生徒」を育てる教員

教員として必要な素養（全ステージ）

豊かな人間性と人権意識 優れたコミュニケーション能力 崇高な使命感と責任感
法令の遵守 高い倫理観と規範意識 常に学び続ける力 **ふるさと山梨の未来を担う人材を育成する力**

ステージ	採用時	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ
		実践力養成期	専門性充実期・協働力養成期	指導力・協働力完成期
各ステージにおいて目指す姿		実践力を磨き、教員としての基礎を築くとともに、資質能力の向上を目指している	専門性を高め、ミドルリーダーとして組織を活性化させるとともに、資質能力の向上を図っている	豊富な経験と広い視野から指導力・協働力を発揮して学校運営を支えるとともに、後進を育成している
【重点項目】 教員主体の授業から児童生徒主体の授業への転換				
学習指導（授業実践）	学習指導要領における趣旨を把握し、各教科等の目標や指導内容、評価方法を理解している。	学習者中心の授業を実践し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に取り組んでいる。 （例：よのなか科など）	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業を実践している。	学びに向かう力の育成や人間性を涵養する授業の実践において、指導的役割を果たしている。
学習指導（学習評価・授業改善）		指導と評価の一体化に取り組むとともに、児童生徒の興味・関心を引き出す教材研究や授業改善を行っている。	適切な評価を行うとともに、学習者中心の授業に向けた改善に取り組んでいる。	適切な評価を基にした授業改善において、指導的役割を果たしている。
生徒指導（学級経営）	各発達段階における心理的特性を把握し、生徒指導の重要性を理解している。	児童生徒一人一人の特性を理解し、よりよい人間関係を築く土台となる集団づくりを行っている。	集団の課題に対し、同僚と協働し解決を図り、児童生徒の可能性を引き出す集団づくりを行っている。	自校の「育てたい児童生徒像」を意識した集団づくりにおいて、指導的役割を果たしている。
ICTや情報・教育データの活用	学校におけるICTの活用の意義や情報・教育データの重要性を理解している。	授業や校務等にICTを活用し、児童生徒の情報モラルを含めた情報活用能力を育成する実践を行っている。	ICTや情報・教育データを適切に活用し、校務の効率化及び児童生徒の学習等の改善を図っている。	ICTや情報・教育データの活用により、自校の課題を明確にし、改善に向けて指導的役割を果たしている。
【重点項目】 全ての子供の学ぶ機会やチャンスをつぶさない教育				
生徒指導（児童生徒理解）	各発達段階における心理的特性を把握し、生徒指導の重要性を理解している。	日々の声かけや面談により、児童生徒の気持ちに寄り添い、信頼関係を構築している。	同僚と協働し、観察や情報収集を通じて児童生徒の理解を深め、課題解決に向け取り組んでいる。	児童生徒の課題を多面的に把握し、課題解決に向けて組織的な取組を推進している。
生徒指導（特別支援教育）		児童生徒の実態を把握し、合理的配慮や教育的ニーズに応じた適切な指導を実践している。	特別支援教育の専門性を高め、同僚と協働し効果的な指導を行っている。	医療や福祉等の関係機関との連携・協働を推進し、組織的な校内支援体制の充実を図っている。
生徒指導（いじめ等への対応）	不登校や子供の貧困、ヤングケアラー、外国籍児童生徒等、児童生徒を取り巻く多様な背景があることを理解している。	いじめ等問題行動の未然防止・早期発見に努め、管理職や関係職員に報告・相談し、早期に対応している。	いじめ等問題行動の未然防止や解決に向けた対処法を身に付け、協働して対応している。	いじめ等問題行動の未然防止や解決に向け、関係機関と連携しながら、組織的に対応している。
特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応		児童生徒の個々の状況や背景を理解し、スクールカウンセラー等からの助言を受け、適切な支援をしている。	児童生徒の個々の状況や背景を分析し、スクールカウンセラー等と連携・協働し、適切な支援をしている。	福祉等の関係機関との連携・協働を推進し、組織的な校内支援体制の充実を図っている。
専門性に関する項目				
学習指導（授業計画）	学習指導要領における趣旨を把握し、各教科等の目標や指導内容、評価方法を理解している。	児童生徒の実態を理解し、学習指導要領の趣旨を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を立てている。	児童生徒の実態に応じて、各教科等の専門的知識を生かし、指導計画を立てている。	教科等の高度な専門性を生かした指導計画の立案において、指導的役割を果たしている。
生徒指導（道徳教育）	各発達段階における心理的特性を把握し、生徒指導の重要性を理解している。	児童生徒の発達段階に応じて、道徳性を高める指導を行っている。	道徳性の高まりや変容を適切に見取り、同僚と共有し、指導に生かしている。	自校の教育活動全体を通じて、児童生徒の道徳性を高めるよう組織的な取組を推進している。
生徒指導（人権教育）		人権を尊重することの意義や必要性を認識し、児童生徒一人一人を尊重した指導を行っている。	多様性を受容し、豊かな人間関係を築くための人権教育を同僚と協働し推進している。	人権が尊重された学校づくりをするために、家庭・地域と協働しながら組織的な取組を推進している。
生徒指導（キャリア教育）	学校運営における今日的課題を把握し、学校運営の重要性を理解している。	キャリア・パスポートを活用し、将来の在り方や生き方を考えさせる指導を行っている。	児童生徒が自分らしい生き方を実現するための力を、同僚と協働し育成している。	地域や産業界と連携し、学校全体による組織的な取組において、指導的役割を果たしている。
学校運営（教育課程）		自校の教育目標と教育課程を理解し、効果的な指導の実現を図っている。	自校の教育目標達成に向け、カリキュラム・マネジメントに基づいた教育課程の編成・実施に参画している。	自校の実態に応じて改善を図ることや、「社会に開かれた教育課程」の編成・実施において、指導的役割を果たしている。
学校運営（連携・協働）	自らの役割を理解し、同僚と協働しながら、その責任を果たしている。保護者等と望ましい信頼関係を構築し、課題に対応している。	ミドルリーダーとして同僚と協働し、積極的に学校運営に参画している。関係機関と連携・協働し、課題解決に向け取り組んでいる。	チームとしての学校という視点を持ち、連携・協働による課題解決をリードするとともに、効果的なOJTを推進している。	
学校運営（学校安全）	学校安全計画や危機管理マニュアル等を理解し、安全管理に取り組んでいる。	学校安全計画や危機管理マニュアル等に基づいた取組を推進し、その改善に努めている。	安全管理に精通し、学校安全計画や危機管理マニュアル等の改善が推進されるよう、指導的役割を果たしている。	
学校運営（働き方改革・業務改善）	自己の課題を認識し、必要な研修に主体的に取り組むとともに、広い視野をもって自己研鑽を積んでいる。	校務に積極的に参加するとともに、勤務時間を意識した働き方を行っている。	働き方改革に積極的に取り組み、ミドルリーダーとして学校運営の持続的な改善を支えている。	学校組織マネジメントの視点から、組織全体を俯瞰し、業務の効率化の具体的提案と推進を図っている。
自ら学ぶ姿勢		教員として学び続ける重要性を理解している。	ミドルリーダーとして、積極的に研修に参加し、その成果を同僚と共有して、自校の教育活動全体に生かしている。	自校の教育課題に対応した研修を企画・立案し、チームとしての学校の組織力を高める取組を推進している。

教員として必要な専門性

※ 第1ステージは採用から5年目まで、第2ステージは6年目～20年目まで、第3ステージは21年目～退職までを目安としてイメージしている。

【改定】 やまなし教員育成指標

教員として必要な専門性を各場面ごとに整理

山梨県が求める教員像

ICTを活用し、多様な子供たちに個別最適な学びと協働的な学びを実践しながら、「自ら考え行動し、他者と協働していく児童生徒」を育てる教員

教員として必要な素養（全ステージ）

豊かな人間性と人権意識 優れたコミュニケーション能力 崇高な使命感と責任感
法令の遵守 高い倫理観と規範意識 常に学び続ける力 **ふるさと山梨の未来を担う人材を育成する力**

ステージ	採用時	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ
		実践力養成期	専門性充実期・協働力養成期	指導力・協働力完成期
各ステージにおいて目指す姿	教育に対する情熱と使命感を有し、今日の教育的課題を積極的にとらえようとしている	実践力を磨き、教員としての基礎を築くとともに、資質能力の向上を目指している	専門性を高め、ミドルリーダーとして組織を活性化させるとともに、資質能力の向上を図っている	豊富な経験と広い視野から指導力・協働力を発揮して学校運営を支えるとともに、後進を育成している
学習指導	授業計画	児童生徒の実態を理解し、学習指導要領の趣旨を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を立てている。	児童生徒の実態に応じて、各教科等の専門的知識を生かし、指導計画を立てている。	教科等の高度な専門性を生かした指導計画の立案において、指導的役割を果たしている。
	授業実践	学習指導要領における趣旨を把握し、各教科等の目標や指導内容、評価方法を理解している。	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実に向けた授業を実践している。	学びに向かう力の育成 や人間性を涵養する授業の実践において、指導的役割を果たしている。
	学習評価・授業改善	指導と評価の一体化 に取り組むとともに、児童生徒の興味・関心を引き出す教材研究や授業改善を行っている。	適切な評価を行うとともに、 学習者中心の授業 に向けた改善に取り組んでいる。	適切な評価を基にした授業改善において、指導的役割を果たしている。
生徒指導	学級経営	児童生徒一人一人の特性を理解 し、よりよい人間関係を築く土台となる集団づくりを行っている。	集団の課題に対し、同僚と協働し解決を図り、 児童生徒の可能性を引き出す集団づくり を行っている。	自校の「育てたい児童生徒像」を意識した集団づくりにおいて、指導的役割を果たしている。
	児童生徒理解	日々の声かけや面談により、 児童生徒の気持ちに寄り添い 、信頼関係を構築している。	同僚と協働し、 観察や情報収集を通じて児童生徒の理解を深め 、課題解決に向け取り組んでいる。	児童生徒の課題を多面的に把握し、課題解決に向けて組織的な取組を推進している。
	道徳教育	児童生徒の発達段階に応じて、道徳性を高める指導を行っている。	道徳性の高まりや変容を適切に見取り、同僚と共有し、指導に生かしている。	自校の教育活動全体を通じて、児童生徒の道徳性を高めるよう組織的な取組を推進している。
	人権教育	各発達段階における心理的 特性を把握し 、生徒指導の重要性を理解している。	人権を尊重することの意義や必要性を認識し、児童生徒一人一人を尊重した指導を行っている。	人権が尊重された学校づくりをするために、家庭・地域と協働しながら組織的な取組を推進している。
	特別支援教育	児童生徒の実態を把握し、 合理的配慮 や教育的ニーズに応じた適切な指導を実践している。	特別支援教育の専門性を高め、同僚と協働し効果的な指導を行っている。	医療や福祉等の関係機関との連携・協働 を推進し、組織的な校内支援体制の充実に図っている。
	いじめ等への対応	いじめ等問題行動の未然防止・早期発見 に努め、管理職や関係職員に報告・相談し、早期に対応している。	いじめ等問題行動の未然防止や解決に向けた対処法を身に付け、協働して対応している。	いじめ等問題行動の未然防止や解決に向け、 関係機関と連携しながら、組織的に対応 している。
	キャリア教育	キャリア・パスポートを活用し、将来の在り方や生き方を考えさせる指導を行っている。	児童生徒が自分らしい生き方を実現するための力 を、同僚と協働し育成している。	地域や産業界と連携し、学校全体による組織的な取組において、指導的役割を果たしている。
	学校運営	教育課程	自校の教育目標と教育課程を理解し、効果的な指導の実現を図っている。	自校の教育目標達成に向け、 カリキュラム・マネジメント に基づいた教育課程の編成・実施に参画している。
連携・協働		自らの役割を理解し、同僚と協働しながら、その責任を果たしている。保護者等と望ましい信頼関係を構築し、課題に対応している。	ミドルリーダーとして同僚と協働し、積極的に学校運営に参画している。関係機関と連携・協働し、課題解決に向け取り組んでいる。	チームとしての学校という視点を持ち、連携・協働による課題解決をリードするとともに、効果的なOJTを推進している。
学校安全		学校安全計画や危機管理マニュアル等を理解し、安全管理に取り組んでいる。	学校安全計画や危機管理マニュアル等に基づいた取組を推進し、その改善に努めている。	安全管理に精通し、学校安全計画や危機管理マニュアル等の改善が推進されるよう、指導的役割を果たしている。
働き方改革・業務改善		校務に積極的に参加するとともに、 勤務時間を意識した働き方 を行っている。	働き方改革に積極的に取り組み、ミドルリーダーとして学校運営の持続的な改善を支えている。	学校組織マネジメント の視点から、組織全体を俯瞰し、業務の効率化の具体的提案と推進を図っている。
特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応	不登校や子供の貧困、ヤングケアラー、外国籍児童生徒等 、児童生徒を取り巻く多様な背景があることを理解している。	児童生徒の個々の状況や背景を理解し、スクールカウンセラー等からの助言を受け、適切な支援をしている。	福祉等の関係機関との連携・協働を推進し、組織的な校内支援体制の充実に図っている。	
ICTや情報・教育データの活用	学校におけるICTの活用の意義や情報・教育データの重要性を理解している。	授業や校務等にICTを活用し、児童生徒の情報モラルを含めた 情報活用能力を育成 する実践を行っている。	ICTや情報・教育データを適切に利活用し、 校務の効率化 及び児童生徒の学習等の改善を図っている。	
自ら学ぶ姿勢	教員として学び続ける 重要性を理解している。	自己の課題を認識し、必要な研修に主体的に取り組むとともに、 広い視野をもって自己研鑽 を積んでいる。	ミドルリーダーとして、積極的に研修に参加し、その成果を同僚と共有して、自校の教育活動全体に生かしている。	

※ 第1ステージは採用から5年目まで、第2ステージは6年目～20年目まで、第3ステージは21年目～退職までを目安としてイメージしている。

【改定】 やまなし養護教諭育成指標

山梨県が求める教員像

ICTを活用し、多様な子供たちに個別最適な学びと協働的な学びを実践しながら、「自ら考え行動し、他者と協働していく児童生徒」を育てる教員

教員として必要な素養（全ステージ）

豊かな人間性と人権意識 優れたコミュニケーション能力 崇高な使命感と責任感
法令の遵守 高い倫理観と規範意識 常に学び続ける力 **ふるさと山梨の未来を担う人材を育成する力**

ステージ	採用時	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	
		実践力養成期	専門性充実期・協働力養成期	指導力・協働力完成期	
各ステージにおいて目指す姿		実践力を磨き、教員としての基礎を築くとともに、資質能力の向上を目指している	専門性を高め、ミドルリーダーとして組織を活性化させるとともに、資質能力の向上を図っている	豊富な経験と広い視野から指導力・協働力を発揮して学校運営を支えるとともに、後進を育成している	
教員として必要な専門性	生徒指導	児童生徒理解	日々の声かけや面談により、 児童生徒の気持ちに寄り添い 、信頼関係を構築している。	同僚と協働し、 観察や情報収集を通じて児童生徒の理解を深め 、課題解決に向け取り組んでいる。	児童生徒の課題を多面的に把握し、課題解決に向けて組織的な取組を推進している。
		道徳教育	児童生徒の発達段階に応じて、道徳性を高める指導を行っている。	道徳性の高まりや変容を適切に見取り、同僚と共有し、指導に生かしている。	自校の教育活動全体を通じて、児童生徒の道徳性を高めるよう組織的な取組を推進している。
		人権教育	各発達段階における心理的特性を把握し、生徒指導の重要性を理解している。	人権を尊重することの意義や必要性を認識し、児童生徒一人一人を尊重した指導を行っている。	多様性を受容し 、豊かな人間関係を築くための人権教育を同僚と協働し推進している。
		特別支援教育	児童生徒の実態を把握し、 合理的配慮 や教育的ニーズに応じた適切な指導を実践している。	特別支援教育の専門性を高め、同僚と協働し効果的な指導を行っている。	医療や福祉等の関係機関との連携・協働 を推進し、組織的な校内支援体制の充実を図っている。
		いじめ等への対応	いじめ等問題行動の未然防止・早期発見 に努め、管理職や関係職員に報告・相談し、早期に対応している。	いじめ等問題行動の未然防止や解決に向けた対処法を身に付け、協働して対応している。	いじめ等問題行動の未然防止や解決に向け、 関係機関と連携しながら、組織的に対応 している。
	学校運営	連携・協働	自らの役割を理解し、同僚と協働しながら、その責任を果たしている。保護者等と望ましい信頼関係を構築し、課題に対応している。	ミドルリーダーとして同僚と協働し、積極的に学校運営に参画している。関係機関と連携・協働し、課題解決に向け取り組んでいる。	チームとしての学校という視点をもち、連携・協働による課題解決をリードするとともに、効果的なOJTを推進している。
		学校安全	学校運営における今日的課題を把握し、学校運営の重要性を理解している。	学校安全計画や危機管理マニュアル等を理解し、安全管理に取り組んでいる。	安全管理に精通し、学校安全計画や危機管理マニュアル等の改善が推進されるよう、指導的役割を果たしている。
		働き方改革・業務改善	校務に積極的に参加するとともに、 勤務時間を意識した働き方 を行っている。	働き方改革に積極的に取り組み、ミドルリーダーとして学校運営の持続的な改善を支えている。	学校組織マネジメント の視点から、組織全体を俯瞰し、業務の効率化の具体的な提案と推進を図っている。
	特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応	不登校や子供の貧困、ヤングケアラー、外国籍児童生徒等 、児童生徒を取り巻く多様な背景があることを理解している。	児童生徒の個々の状況や背景を理解し、スクールカウンセラー等からの助言を受け、適切な支援をしている。	児童生徒の個々の状況や背景を分析し、 スクールカウンセラー等と連携・協働 し、適切な支援をしている。	福祉等の関係機関との連携・協働を推進し、組織的な校内支援体制の充実を図っている。
	ICTや情報・教育データの活用	学校におけるICTの活用の意義や情報・教育データの重要性を理解している。	授業や校務等にICTを活用し、児童生徒の情報モラルを含めた 情報活用能力を育成 する実践を行っている。	ICTや情報・教育データを適切に活用し、 校務の効率化 及び児童生徒の学習等の改善を図っている。	ICTや情報・教育データの活用により、自校の課題を明確にし、改善に向けて指導的役割を果たしている。
自ら学ぶ姿勢	教員として学び続ける 重要性を理解している。	自己の課題を認識し、必要な研修に主体的に取り組むとともに、 広い視野を持って自己研鑽 を積んでいる。	ミドルリーダーとして、積極的に研修に参加し、その成果を同僚と共有して、自校の教育活動全体に生かしている。	自校の教育課題に対応した研修を企画・立案し、チームとしての学校の組織力を高める取組を推進している。	
養護教諭として必要な専門性	保健管理	学校保健安全法等を理解し、保健管理に関する基礎を身に付けている。	児童生徒の健康状態を把握し、様々な課題に対して適切に対応している。	家庭や地域の医療機関等との連携体制づくりを推進し、様々な課題に対応している。	
	保健教育	学習指導要領の内容を把握し、専門性を生かした指導を理解している。	学級担任等と連携し、専門性を生かした保健教育を実践している。	児童生徒の健康課題解決を目指した指導計画立案に関わり、実践している。	
	健康相談・保健指導	健康相談及び、これを踏まえた保健指導の重要性を理解している。	心身の健康課題の解決を目指した健康相談・保健指導を実施している。	心身の健康課題の早期発見に努め、解決に向けた健康相談・保健指導の体制を整備している。	健康相談を専門家を交えて組織的に行えるよう、コーディネーターとしての役割を果たしている。
	保健室経営	養護教諭の役割と職務内容を理解している。	学校教育目標の具現化を目指した保健室経営計画を作成し、目標達成に向けて実践している。	保健室経営計画を教職員に周知し、校内の組織運営に積極的に役割を果たそうとしている。	校内のみならず保護者や地域の関係機関と連携して、保健室経営を組織的に推進している。
	保健組織活動	保健組織活動の意義を理解している。	保健組織活動の意義を理解し、活動の企画運営に参画している。	校内の保健活動を主体的に進められるよう教職員の連携をコーディネートするとともに、学校医等との連携体制を整備している。	地域における健康課題の解決に向けた連携体制づくりを推進している。

※ 第1ステージは採用から5年目まで、第2ステージは6年目～20年目まで、第3ステージは21年目～退職までを目安としてイメージしている。

【改定】 やまなし栄養教諭育成指標

山梨県が求める教員像

ICTを活用し、多様な子供たちに個別最適な学びと協働的な学びを実践しながら、「自ら考え行動し、他者と協働していく児童生徒」を育てる教員

教員として必要な素養（全ステージ）

豊かな人間性と人権意識 優れたコミュニケーション能力 崇高な使命感と責任感
法令の遵守 高い倫理観と規範意識 常に学び続ける力 **ふるさと山梨の未来を担う人材を育成する力**

ステージ	採用時	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ		
		実践力養成期	専門性充実期・協働力養成期	指導力・協働力完成期		
各ステージにおいて目指す姿		実践力を磨き、教員としての基礎を築くとともに、資質能力の向上を目指している	専門性を高め、ミドルリーダーとして組織を活性化させるとともに、資質能力の向上を図っている	豊富な経験と広い視野から指導力・協働力を発揮して学校運営を支えるとともに、後進を育成している		
教員として必要な専門性	生徒指導	児童生徒理解	日々の声かけや面談により、 児童生徒の気持ちに寄り添い 、信頼関係を構築している。	同僚と協働し、 観察や情報収集を通じて児童生徒の理解を深め 、課題解決に向け取り組んでいる。	児童生徒の課題を多面的に把握し、課題解決に向けて組織的な取組を推進している。	
		道徳教育	児童生徒の発達段階に応じて、道徳性を高める指導を行っている。	道徳性の高まりや変容を適切に見取り、同僚と共有し、指導に生かしている。	自校の教育活動全体を通じて、児童生徒の道徳性を高めるよう組織的な取組を推進している。	
		人権教育	各発達段階における心理的特性を把握し、生徒指導の重要性を理解している。	人権を尊重することの意義や必要性を認識し、児童生徒一人一人を尊重した指導を行っている。	多様性を受容し 、豊かな人間関係を築くための人権教育を同僚と協働し推進している。	人権が尊重された学校づくりをするために、家庭・地域と協働しながら組織的な取組を推進している。
		特別支援教育	児童生徒の実態を把握し、 合理的配慮 や教育的ニーズに応じた適切な指導を実践している。	特別支援教育の専門性を高め、同僚と協働し効果的な指導を行っている。	医療や福祉等の関係機関との連携・協働 を推進し、組織的な校内支援体制の充実を図っている。	
		いじめ等への対応	いじめ等問題行動の未然防止・早期発見 に努め、管理職や関係職員に報告・相談し、早期に対応している。	いじめ等問題行動の未然防止や解決に向けた対処法を身に付け、協働して対応している。	いじめ等問題行動の未然防止や解決に向け、 関係機関と連携しながら、組織的に対応 している。	
	学校運営	連携・協働	自らの役割を理解し、同僚と協働しながら、その責任を果たしている。保護者等と望ましい信頼関係を構築し、課題に対応している。	ミドルリーダーとして同僚と協働し、積極的に学校運営に参画している。関係機関と連携・協働し、課題解決に向け取り組んでいる。	チームとしての学校という視点をもち、連携・協働による課題解決をリードするとともに、効果的なOJTを推進している。	
		学校安全	学校運営における今日的課題を把握し、学校運営の重要性を理解している。	学校安全計画や危機管理マニュアル等を理解し、安全管理に取り組んでいる。	安全管理に精通し、学校安全計画や危機管理マニュアル等の改善が推進されるよう、指導的役割を果たしている。	
		働き方改革・業務改善	校務に積極的に参加するとともに、 勤務時間を意識した働き方 を行っている。	働き方改革に積極的に取り組み、ミドルリーダーとして学校運営の持続的な改善を支えている。	学校組織マネジメント の視点から、組織全体を俯瞰し、業務の効率化の具体的提案と推進を図っている。	
	特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応	不登校や子供の貧困、ヤングケアラー、外国籍児童生徒等 、児童生徒を取り巻く多様な背景があることを理解している。	児童生徒の個々の状況や背景を理解し、スクールカウンセラー等からの助言を受け、適切な支援をしている。	児童生徒の個々の状況や背景を分析し、 スクールカウンセラー等と連携・協働し 、適切な支援をしている。	福祉等の関係機関との連携・協働を推進し、組織的な校内支援体制の充実を図っている。	
	ICTや情報・教育データの利活用	学校におけるICTの活用意義や情報・教育データの重要性を理解している。	授業や校務等にICTを活用し、児童生徒の情報モラルを含めた 情報活用能力を育成 する実践を行っている。	ICTや情報・教育データを適切に利活用し、 校務の効率化 及び児童生徒の学習等の改善を図っている。	ICTや情報・教育データの利活用により、自校の課題を明確にし、改善に向けて指導的役割を果たしている。	
自ら学ぶ姿勢	教員として学び続ける 重要性を理解している。	自己の課題を認識し、必要な研修に主体的に取り組むとともに、 広い視野を持って自己研鑽 を積んでいる。	ミドルリーダーとして、積極的に研修に参加し、その成果を同僚と共有して、自校の教育活動全体に生かしている。	自校の教育課題に対応した研修を企画・立案し、チームとしての学校の組織力を高める取組を推進している。		
栄養教諭として必要な専門性	食に関する指導	指導計画の立案と推進	食に関する指導計画の必要性を理解し、実施している。	指導計画の立案や全校的な食育の推進体制において、教職員の連携をコーディネートしている。	指導計画に基づいた食育を実施・評価し、改善の中心的な役割を果たしている。	
		学校給食の時間における指導	教育活動全体を通して食育を推進することの意義を理解している。	学校給食の献立や使用されている食品を活用し、効果的な指導を行っている。	給食時の指導計画を示し、学校給食の教材化を図っている。	学校給食の時間における食に関する指導について、教職員への指導的役割を果たしている。
		教科等における指導	教科等の内容やねらいを理解し、専門性を生かした食に関する指導を行っている。	教職員と連携して、教科等での食に関する指導の内容、評価の計画作成を行っている。	教職員と連携して、教科等での食に関する指導の内容、評価の計画作成を行っている。	教科等での食に関する指導の内容・評価について、的確な助言を行っている。
		個に応じた対応・指導	児童生徒の実態把握と個別的な相談・指導の重要性を理解している。	児童生徒の課題を把握し、教職員や保護者と連携して対応している。	児童生徒の健康状況に応じて、教職員や保護者と連携して対応・指導を行っている。	児童生徒の課題を総合的にとらえ、教職員や保護者と連携し、専門的見地から対応・指導している。
	学校給食の管理	栄養管理	学校給食実施基準等を理解し、栄養管理に関する基礎を身に付けている。	学校給食摂取基準を踏まえ、多様な食品を適切に組み合わせた献立を作成している。	児童生徒の実態や学校・地域の特色に応じた献立を作成し、施設に合わせた調理指導をしている。	地域において、献立作成や調理指導の方法に関する指導的役割を果たしている。
		衛生管理	学校給食衛生管理基準等を理解し、衛生管理に関する基礎を身に付けている。	学校給食衛生管理基準に基づき、指導・助言をしている。	給食施設や学校の課題を的確に捉え、調理から喫食までの衛生管理について指導・助言をしている。	地域において、調理場から学校での衛生管理に関する指導的役割を果たしている。

※ 第1ステージは採用から5年目まで、第2ステージは6年目～20年目まで、第3ステージは21年目～退職までを目安としてイメージしている。

【改定】やまなし校長指標

校長として目指す姿		リーダーシップやマネジメント力を発揮し、 信頼される学校経営を行う校長	
校長として必要な素養	マネジメント力	教育者としての資質や的確な判断力、決断力、交渉力、危機管理などの マネジメント力の向上 に取り組んでいる。	
		学校の実態に関する様々なデータや学校が置かれた内外環境に関する情報について収集・整理・分析し共有する アセスメント力の向上 に取り組んでいる。	
		学校内外の関係者の相互作用により、学校の教育力が最大化できる ファシリテーション力の向上 に取り組んでいる。	
	使命感・責任感	確かな教育理念と高い見識を有し、教育に対する県民の期待に応え、信頼される学校づくりを行っている。	
	教育的愛情	ふるさと山梨の未来を担う人材を育成するために、児童生徒及び教職員一人一人を信頼・理解し、それぞれの成長を支援している。	
	リーダーシップ	時代の趨勢を見極め、明確なビジョンを示し、学校組織を統率するとともに、「チーム学校」の具現化に向けて取り組んでいる。	
自己啓発力	社会情勢や最新の教育課題に関心を持つとともに、豊かな教養を備えるなど、校長としての資質能力を向上させようと常に学び続けている。		
校長として必要なマネジメント	教育の管理	経営方針の構築	学校の現状と課題を把握するとともに、国や県等の教育施策等を踏まえ、学校教育目標を策定している。
		教育課程の編成	学校教育目標の達成に向け、「社会に開かれた教育課程」を編成・実施している。
		学校評価・改善	学校評価等を適切に活用し、自校の教育活動を改善している。
	教職員の管理	人材育成	教職員一人一人の資質能力とキャリアステージについて指導・助言し、自律的な成長を支援している。
		研 修	教職員が主体的に学び続けることができる体制を構築し、校内研修や校内研究を活性化させるとともに、研修履歴を活用して教職員の資質能力の向上について指導・助言している。
		管理・監督	働き方改革を積極的に推進するとともに、教職員の勤務状況と心身の健康状態等を的確に把握し、職務及び身分の適切な管理・監督をしている。
		人事評価	公正公平な人事評価を行い、教職員の資質能力の向上及び組織の活性化を図っている。
	施設・事務の管理	施設・設備の管理及び、会計処理や事務手続きなど学校事務に関する管理を適切に行っている。	
	危機管理・学校安全	組織的な危機管理体制を構築するとともに、危機発生の前防止から発生時、事後までを見据えたリスクマネジメントの徹底を図っている。	
	連携・協働	学校運営協議会や学校評議員会等を活用し、保護者や地域、関係機関と連携した協働体制を構築している。	